

必要なことは一つだけ

(ルカ10・38～42)

一、10章のマリアは？

38節に「さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人人がイエスを家に迎え入れた。」とあります。福音書記者のルカが村の名前を記さなかったのは、興味がなかったからなのでしょうか。あるいは取えて伏せたのでしょうか。分かりません。ただ「すると、マルタという女の人人がイエスを家に迎え入れた」とありますので、マルタはその前から主イエスをご存じで、大切なお方と受け止めていることが分かります。

39節をご覧ください。「彼女にはアという姉妹がいたが、主の足もとに座つて、主のことばに聞き入つていた。」とあります。「彼女にはマリアといふ姉妹がいたが」と解説していますが、批評的な注解書は、ルカの福音書7章に登場する「罪深い女」がマリアであったと解説しています。ですが、別人です。7章に登場する女性は、香油の入った石膏の壺を持ってきて、泣きながら主イエスの足を涙でぬらし、髪の毛で拭い、主イエスの足に口づけをして香油を塗りました。彼女は自分の罪が赦されたことを知り、主イエスに深い感謝をあらわしました。とても美しい話で書かれていません。似ている話が、ヨハネの福音書12章に出でまいります。そこから、ルカの福音書7章に登場する、主イエスに香油を注いだ「罪深い女」とマリアが同じ人物であったと考えるわけです。一つの伝承が変化して、マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネに書かれていると考えるからです。ですが私は、別の話だと考えます。出来事が似ていたからといって、元が一つの出来事であつたと受け止めるのはおかしいです。それに、ルカの福音書は、「彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座つて、主のことばに聞き入つていた」と語り、その前の7章で書き記した「罪深い女」とは別人として記しています。マリアに授けられた持ち味であり、賜物は何だったのでしょうか。それは「みことばに感動する」というものでした。マリアは、生けるみことばである主イエス・キリストに感動していました。聖書からみことばが語られ、すなわち主イエス・キリストの福音が語られても、みんなが「マリア」になるわけではありません。ある人は救われ、ある人は関心を払わず、ある人は熱心なキリスト信仰を持つようになり、ある人は普通にキリスト者として生活します。もし皆さまが「みことばなしには生きられない」「主イエスを信じない生活など考えられない」と思つておられる

す。この女性の名前はルカの福音書に

書かれていません。似ている話が、ヨハネの福音書12章に出でまいります。そ

二、必要なことは一つだけ

マリアは客のもてなしが嫌だったから、イエスさまの足もとに座つて、みことばに聞いていたのだと思われます。と言いますのは、ヨハネの福音書12章に書かれていますが、マリアがいました。ヨハネの福音書12章に書かれていますが、マリアがイスカリオテのユダが「どうして、この香油を三百アナリで売つて、貧しい人々に施さなかつたのか」と語つたと記されています。その後で主イエスは、「そのままさせておきなさい。マリアは、わたしの葬りの日のために、それを取つておいたのです」と語られました。マリアは、主イエスがもうすぐいなくなられる気付いていたのです。ならば、「主の足もとに座つて、主のことばに聞き入つていた」のは、よみせられることがあります。マルタがマリアを止めてはならないわけです。ところでマルタは、「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするようにおっしゃつてください」と語りました。信頼が薄かったからなのでしょうか。そうではありません。マルタは主イエスさまに最高のもてなしをしようと思いました。すばらしいことです。そ

れはマルタの持ち味であり、賜物です。この時、マルタにはマリアのことが理解できなかつたのであります。同じじきょうだいでも、あるいは親子でも、持ち味と賜物が異なりますと、互いに理解できないものです。ですがこの時、マルタがマリアに学ぶのが正しいことだつたようです。と言いますのは、41節、42節で、主イエスが次のように語られているからです。〈主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩つて、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。〉

三、私たちへの適用

適用として「一つのことを申し上げたいと思います。一つは、主イエス・キリストを信じている人は、みな「マリア」であることです。なぜならこの世に生を享けた者で、みことばに聞き入る人は少ないからです。

もう一つの適用は、主イエス・キリストを信じたら「マリア」を消してはならないことです。マルタも必要です。ですが、マリアのような人を見て、さばいてしまってはなりません。あるいは自分の中にいる「マリア」を消してしまおうが、いう誘惑が来たら、ぜひ消さないでください。